

平成二十六年七月十五日

日本百観音巡禮とは西國三十三ヶ所、坂東三十三ヶ所、秩父三十四ヶ所を總合せる日本を代表する百の観音巡禮なり。平成二十六年は甲午きのえうまにて、秩父三十四ヶ所観音靈場は十二年に一度の總開帳となること、友人より知らせあり。近年、「見えざる世界」ブームに乗り、大手旅行會社もこの靈場巡りのツアー構築し、人氣博す。仕事完全に引退したる折りには、四國八十八ヶ所巡禮もしたしとのおぼろげなる希望ありたれば、早速ネットにて檢索確認し、その旅行會社に申込み、三十四ヶ所を全五回に分け巡るツアーの第一回に友人とともに七月十五日に参加す。殆どのツアー満席の中、やうやく豫約取るを得。

午前七時半、大型バス二臺にて新宿驛西口出發。一時間半關越道を下り、秩父に到着す。四し萬部寺、定林寺、西光寺、慈眼寺、少林寺、常樂寺、大慈寺と七ヶ所廻れり。毎回蠟燭を立て、過去、現在、未來を象徴する線香三本上げ、お勤めかいきやうげ（開經偈、懺悔文、般若心經、延命えんめい十句観音經、御本尊眞言、普回向ふゑかう）。總開帳の觀世音菩薩像歴史深きが故に御顔立ち定かに見えず、観音像の下に鮮明なる寫眞展示せらるることも多し。聖觀世音菩薩、十一面觀世音菩薩、千手觀世音菩薩、寺により異なるも、有難き御姿に合掌す。

慌ただしく廻りたればにや、三時半には全行程終へ、再び大型バスに乘車し、東京へ向ふ。暑さも手傳ひ、歸途は忽ち眠りに落ち、目覺むるなきまま新宿に五時過ぎに到着す。次回は八月十九日、最終回は十一月なり。總開帳は十一月十八日にて終了すること決まりたれば、七月より始めざらましかば、間に合ふまじく。これもご御縁なるか。翌日の爽快感はこのゆゑかと覺ゆ。